

倶多楽の火山活動解説資料（平成30年3月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1、図2-①）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

今期間、大正地獄で熱湯噴出がありました。大正地獄の熱湯噴出は度々みられており、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・地震及び微動の発生状況（図2-②、図3）

18日に日和山の北西側を震源とする火山性地震がやや増加しましたが（18回/日）、地震増加時にその他の観測データに変化はありませんでした。その他の日は、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図2-③）

GNSS¹⁾ 連続観測では、2017年7月以降、日和山東-白老を結ぶ基線でわずかに伸びの変化がみられていますが、表面現象や地震活動に特段の変化は認められていません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

次回の火山活動解説資料（平成30年4月分）は平成30年5月10日に発表する予定です。



図 1 倶多楽 南南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（3月21日、414m山監視カメラによる）

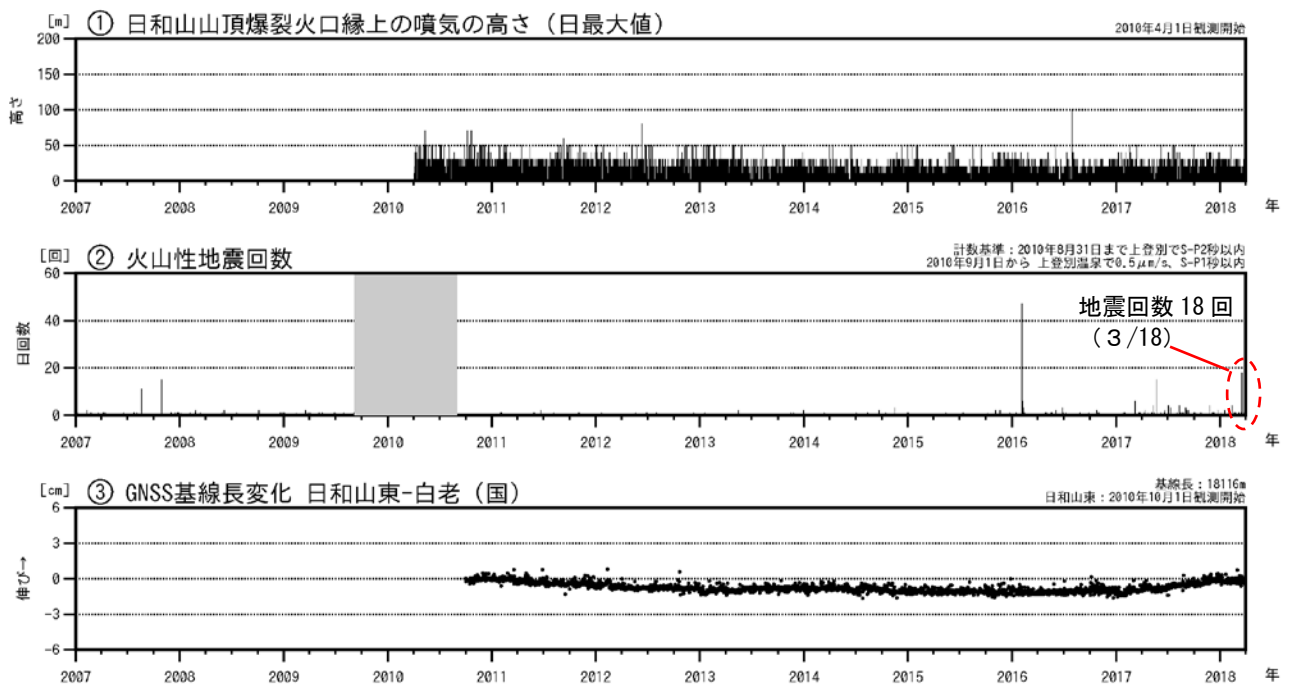
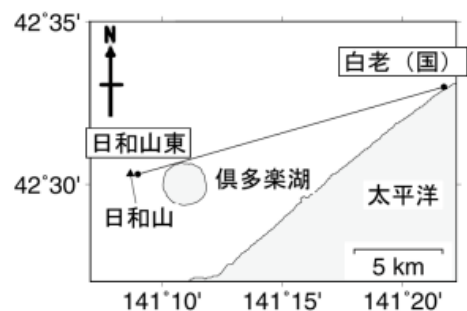


図 2 倶多楽 火山活動経過図（2007年1月～2018年3月）

- ・GNSS基線ではわずかな伸びがみられていますが、地震活動や表面活動に変化は認められません。
- ・②の灰色の期間は機器障害による欠測を示します。
- ・③のGNSS基線は右配置図の基線に対応しています。
- ・(国)：国土地理院



GNSS連続観測点配置図

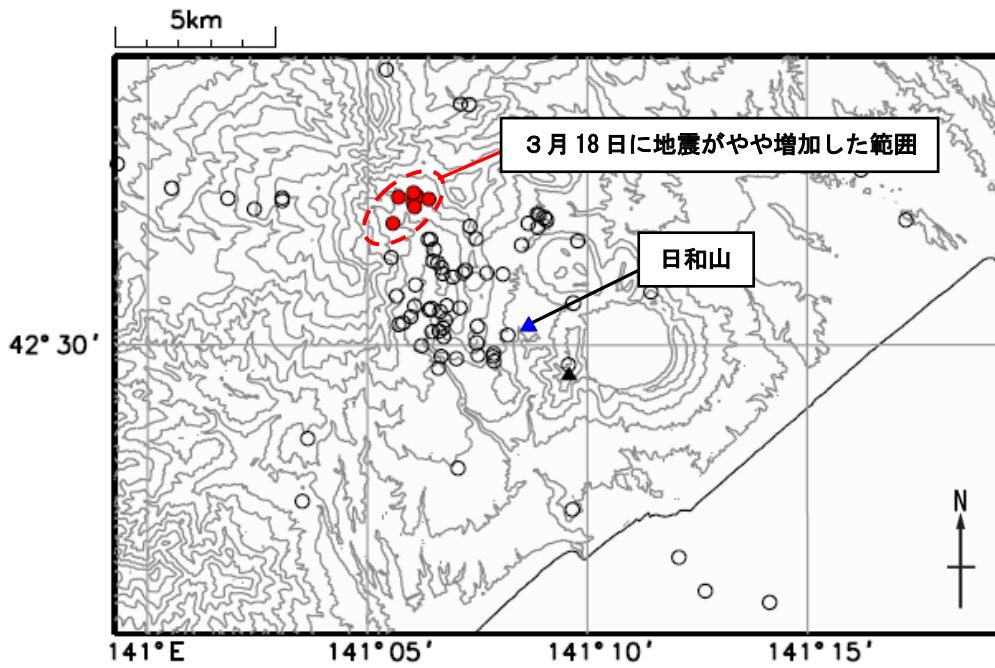


図3 倶多楽 広域地震観測網による山体周辺の地震活動
 (1997年10月1日~2018年3月31日、 $M \geq 0.5$ 、深さ10km以浅)
 ・3月に発生した地震を赤いシンボルで表示しています。

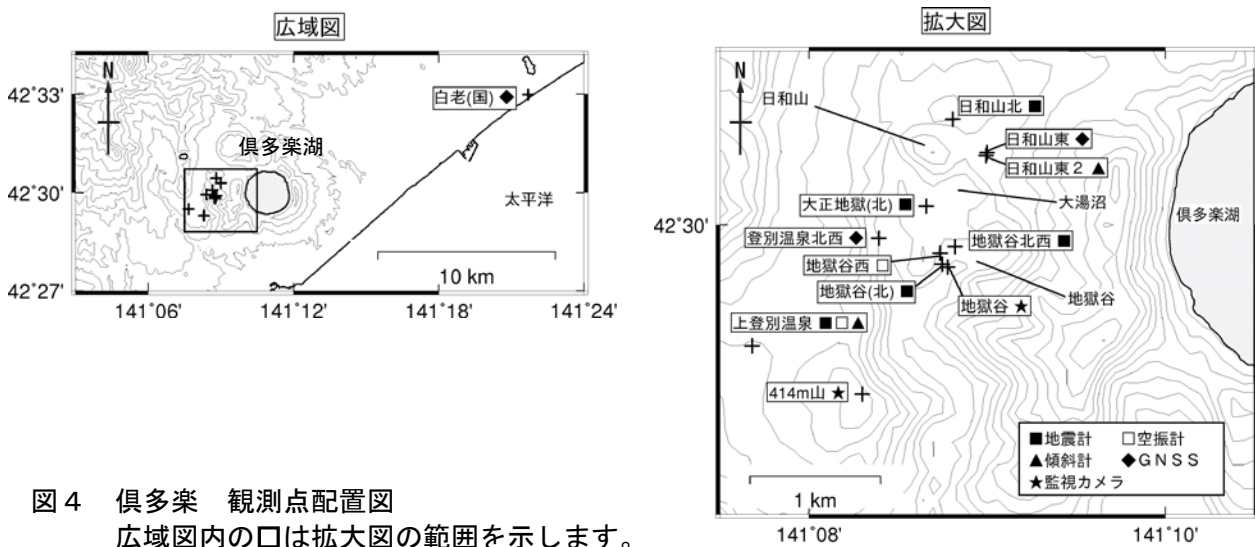


図4 倶多楽 観測点配置図
 広域図内の口は拡大図の範囲を示します。
 +印は観測点の位置を示します。
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
 (国) : 国土地理院
 (北) : 北海道大学